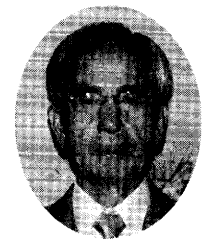
中友会

［発行所］
中　友　会
港区西新橋1-22-13
全日本中学校長会館202号室
東京都中学校長会事務局内
TEL　03-3504-8705
FAX　03-3504-8706

会則第２条
- 親　睦
- 互　助
- 生涯学習

http://chuyu-kai.org/



充実した日々をめざして

中友会会長　宇津木　順一

本年６月２日、会員皆さまの協力により、本会が最も力を入れている合祀慰霊祭を、護国寺に於いて厳粛に執り行うことが出来ました。中友会は昭和42年に結成され発足しましたが、結成と同時に第１回の合祀慰霊祭が護国寺で行われて以来、ほぼ３年ごとに行われ、中友会発足51年目に当たる本年、第17回の合祀慰霊祭を行うことが出来ました。今回は、１９６名の校長先生方をご遺族と共に追悼し、慰霊することが出来ました。また、たくさんの会員の皆様から故人を追悼して、香華を捧げていただきました。苦楽を分かち合った仲間の絆を強く感じます。

皆様のご協力をいただき、厳粛に無事に合祀慰霊祭を執り行うことが出来ましたことを報告し、改めてお礼申し上げます。

４月26日に平成30年度都中学校長会総会があり、その後の歓送会に中友会を代表して出席いたしました。定年を迎えられた先生方は、達成感とともに、新たな歩みのスタートに立った決意にあふれているご様子で、元気一杯はつらつとした姿がまぶしく感じられました。

乾杯の機会をいただきましたので、私自身の退職時を振り返りながら、先生方への新たな門出をお祝いして、自戒も込めながら、次のような挨拶をいたしました。

「皆様の多くは、職業生活の大きな節目である定年を迎えられたわけですが、今までとほぼ同様の仕事を続けられておられる先生方も多く、定年を迎えたという実感は少ないかもしれません。しかし、この４月からは、先生方ご自身のお考えで、思いで、新たな歩みをスタートされました。私たちは、中学生、特に中学３年生に向かって『これからは自らの意志と力で、努力で、自分の道を切り開いてほしい』と言ってきましたが、先生方は、今そのことを改めてご自身の問題として考えておられるかと思います。人生１００年時代と言われる長寿社会です。先生方が今まで培われた深い知識や技能に基づく英知と、豊かな経験を生かされて、新たな気持ちで、新たな世界で、ご自身のために、社会のために、ご活躍されますよう願っております。』

このように述べさせていただいたのは、退職されたある校長先生から聞いた、その先生の退職後の生き方が大変印象深く、心に残っていたからです。

先生は、定年退職時に退職後の仕事についていろいろな選択肢がありましたが、最も関心をもっていた図書館を選び図書館業務に携わりました。業務を通して製本に関する専門的な知識や技術を学ばれ、その技術を習得されました。その奥深さに一層興味を深められたのだと思います。図書館の仕事が終わった後は、身に付けた製本の知識や技術を生かして、自ら本を製作し、知人にも分けて製本の楽しさを伝えるとともに、関心のある人には製本の技術を伝授するなどして、今、積極的に活躍されています。

このように目標をもって退職後の仕事を選択し、計画的に新たな知識や技術を吸収して、自ら楽しむとともに、それを生かして人々のために役立たせている、その先生の生き方に深く共感し、敬服しました。

退職後の充実した生活をめざして、日々有為に過ごす大切さを改めて示唆されたように思います。

大分遡ってしまいますが、今年の冬季オリンピック、スピードスケートで世界新を記録した小平奈緒選手が、「ガンジーの言葉に『明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ』があります。こうした言葉に出会うと、自分の中に種を蒔かれたようで、自力で解決して、行動に移して、その種を生長させることにも楽しみを感じています」と言っていました。

『明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ』難しい課題ですが、若者にも学びながら、一日一日を大切に生きたいと思います。